

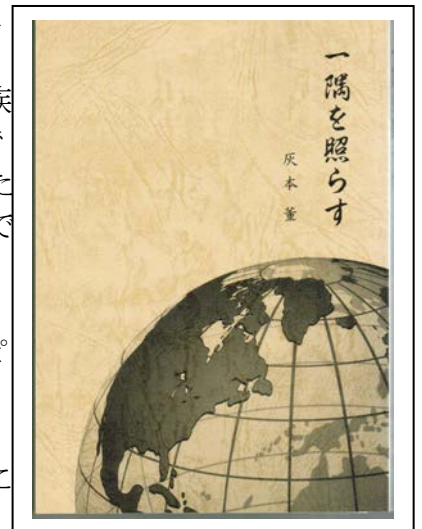
## 「一隅を照らす」

### 1. ある恩人からの一冊

右掲は、私がトヨタ系販売店に入社してコンピュータ担当者になった時のIBMの営業課長であった灰本董様が、自費出版されて贈って下さった本です。タイトルは「一隅を照らす」です。灰本様は、有名な一族の方でゴルフで言えば名門の茨木カントリーの会員を相続された方です。現役時代はIBMで活躍されて、関連会社で社長を長く担当された方です。もちろん、実家も立派であれば、IBMの年金なども十分なので悠々とされている筈で、おそらく顧問をされていた所も離れておられると思うので、何不自由のないご生活と思っています。

灰本様には人生の節目で何かとお世話になりました。例えば、コンピュータ導入の時の営業課長をされており、入社2年の私に「とっちゃん、コンピュータは安くなっているのでフル・スペックで買ったらい」とアドバイスをして頂き、その後、コンピュータを代替する時もフル構成にして、約4年サイクルで代替していましたが、その間、システム開発を継続できる余裕がありました。会社の故福井社長も十分にご理解があり、営業会議では「コンピュータがヒマやと言っている」と営業に檄を飛ばされて、もっとクルマ販売に活用しろとおっしゃっていました。

また、関連の大阪情報システムがIBM特約店になり、システム/34の後継機は、当時、新概念で発売されたシステム/38(現AS/400の前進機)が順当だったのですが、同社とのしがらみでシステム/36GPを導入した事がありました。同機は前システムの完全互換機だったので、開発の空白期間が出来たのです。丁度、この時、IBMユーザーが外部のソフト開発するという主旨のUOS(User Oriented Software)という団体が立ち上がり、灰本様のご紹介で幹事だったキョーラクの辻様をご紹介して頂き、3年間、外部の開発を行い、社内では経験できない案件、例えば、N生命の百周年事業で全国の営業所に2000台のシステム/36を配置して、本社コンピュータにAPPC手順で要求処理する基本開発や、冷凍機メーカーF工業の生産管理のMRP展開の所要時間短縮チューニング、今も弊社のお客様であるF鋸螺様の東京支店とのパケット通信料を半減させるチューニングを行いました。このUOS活動を始める際に灰本様が「とっちゃん、A4で1枚で良いから毎月社長にレポートしなさい」とアドバイスを頂き、それが習慣化して、社長との意思疎通が密になり、また、今日にも役立っていますので、本当に「愛語回天」のお言葉を頂きました大恩人な方です。



### 2. 「一隅を照らす」

この灰本様が「孫との会話の機会もないので、80を前に出版した」と書いておられ、自分を振り返って、いろんなジャンルの事に思いを書かれており、孫の世代に「一隅を照らす」とされたと思っています。そこで、ネットで調べると天台宗は「一隅を照らす」という運動をされていて、ホームページから引用しますと

「一隅を照らす、これすなわち国宝なり」という、天台宗を開かれた伝教大師最澄さま(767～822)の精神を現代に生かすために生まれました。一隅(いちぐう)とは、今、あなたがいる、その場所です。あなたが、あなたの置かれている場所や立場で、ベストを尽くして照らしてください。あなたが光れば、あなたのお隣も光ります。町や社会が光ります。小さな光が集まって、日本を、世界を、やがて地球を照らします。あなたの一隅から世界を照らしましょう！一人ひとりが輝きあい、手をつなぐことができれば、みんなが幸せになり、素晴らしい世界が生まれます。」

とあります。

つまり、「置かれている場所や立場で、ベストを尽くす」という事が基本との事です。私は、自分

の仕事や役割にベストを尽くしているかと自問自答してみたのです。自己判断では「やっている心算」ですが、問題は「一人ひとりが輝きあい、手をつなぐことができれば、みんなが幸せになり、素晴らしい世界が生まれます」のところで少し躓くのです。他人が「輝く」ことを羨むのではなく、相互に認め合い協力し合うことが大切なのです。この「他の人を認め、相互に認め合う」ことが難しいのです。自分一人ではできないのです。相手が拒否すれば、うまく展開せず、自ずからこちら拒否する反応になってしまうのです。こんな自分を再度、思いました。

### 3. 「一隅を照らす」運動の3本柱

最近、私は70才になるので地域活動にも参加するようになり、また、地元のカラオケ喫茶にも行くようになりました。が、やっぱり、波長の合わない方がいらっしやるのです。女性の方は挨拶を繰り返すと状況は変わりやすいですが、男性の方は挨拶すら交わせない状況、つまり、挨拶しても返事がない状況で関係改善には程遠い状況です。「都会の中の村社会」、私はその新人なので人間関係の構築に難儀しているのです。

天台宗のHPには「実践3つの柱」として「生命 あらゆる命を大切にしよう」「奉仕 みんなのために行動しよう」「共生 自然の恵みに感謝しよう」と具体的に示されています。このような大きな悟りには程遠いですが、私は、「生命:感謝の気持ちを持って相手に接する」、「奉仕:皆の為に率先して行う」、「共生:お互い様の精神で和気藹々」と置き換えて、波長の合わない方も受け入れて、協力し合って、今の自分に感謝して行きたいと思うようになって来ました。「感謝と奉仕」と故福井社長がスローガンになさっていたのを懐かしく思い出しました。また、「お互い様」は日本人の素晴らしい言葉だと痛感します。

このように、天台宗の教えから実践の3本柱を「生命・奉仕・共生」とシンプルに標語化して、「感謝・奉仕・お互い様」と身近な言葉に置き換えました。灰本様の著書から、これから70代の生き方を再確認できたので感謝しています。皆さまは、まだまだ、現役なので「勝負」の世界にいられますが、ビジネスの基本に「実践の3つの柱」は必須と思うのでご参考になればと思います。

### 4. 「縁・運・つき」

人生は「縁・運・つき」と申しますが、私は、いいご縁に恵まれたと自分の運の強さに感謝しています。そして、なによりも「ついている」と思う事が多いです。今回、灰本様から著書「一隅を照らす」を贈って頂きましたが、改めて「一隅を照らす」を調べ、実践の3本柱として自分流に「感謝・奉仕・お互い様」と解釈する事が出来ました。

実は、弊社の事務所はマンションの一室なのですが、約500戸ほどある大規模な所です。丁度、22年前(平成9年5月)に購入して事務所風にリフォームして5人程がMaxのSOHOです。隣室の方が亡くなられた時に、縁あってマンションの老人会「ひまわり会」に入会しました。その後、会計担当として役割を果たしていますが、最近、傲慢な管理組合の理事長が当会の運営に難癖をつけて、会員の集会室を利用する権利を奪う事案が生じてトラブルっています。

このトラブルの解決に灰本様に教えて頂いた事、つまり、「事実をレポートする」という事が非常に役立っています。理事長が可視化の為に文書でやりとりと希望されたので、冷静に事実のみを書くようにしたのです。私は、「ひまわり会」の運営で「一隅を照らす」という言葉の意味を身をもって深く噛みしめています。「感謝・奉仕・お互い様」という3本柱もこのトラブルの解決に間に合っています。

「縁・運・つき」と言う言葉がありますが、同じ情報に接しても「運」によって真逆の結果になります。私は、今回も「俺はついている」と思いました。サラリーマン時代のご縁で灰本様から「一隅を照らす」という著書を贈って頂き、その意味を現実のトラブルで噛みしめることが出来たのです。故福井社長のお蔭で、よいご縁の方々に恵まれたと改めて感謝します。

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryo.html> にあります！】